

迦及び十六羅漢像五幅は各壁一米三四釐・横五七釐で、その印影により長谷川等誓の筆と認められるものである。

チヨウシユン 澄舜 石川郡三宮墓地に『文明十六年五月廿五日澄舜』と刻した五輪塔の地輪がある。附近に白山長吏の墓が多いから、澄舜は長吏澄榮の先代かと思はれるが、文獻に所見はないやうだ。

チヨウシユン 澄純 白山本宮の長吏。澄羽の子。寛文元年七社惣長吏の繪旨を得る爲に上洛したが、若年たるにより許可を得ず、三年また出京中三月二日その地で歿した。歳廿一。但し寛文元年白山七社惣長吏職澄純と書いた奉加帳が残つてゐるから、澄純は既に私にこの職名を冒してゐたのであらう。

チヨウシユン 長順寺 河北郡大坪に在つて、眞宗東派に屬する。もと河内國中河内郡八尾町に居たが、明治三十四年十月今の地に移つた。

チヨウシユン 長順寺 鹿島郡向田に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウシユン 長順寺 鳳至郡鐘川に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウシヨウ 澄勝 白山本宮の長吏。澄勝は廣橋内大臣兼秀の弟であつたが、澄辰の子澄明が廿五歳を以て歿したので、澄明の女の誓となつたものである。白山比咩神社文書永祿五年八月・元龜三年十一月等に惣長吏法印澄勝と書いたものがあるけれども、その惣長吏たる勅許を得たのは、天正十二年七月廿八日惣長吏宛所頭造營の繪旨を受けたときにあるのであらう。同十八年八月廿三日七十六歳を以て歿。

チヨウシヨウ 澄昌 白山本宮の長吏。澄盛の子。天明四年職を襲いだが、未だ七社惣長吏たるの繪旨を受けず、五年八月廿九日歿した。享年四十一。長吏來歴書には澄昌の死を天明四年と記するが、石碑に『白山長吏澄昌法印歿位、天明五〇〇月二十九日』と刻してあるから、非である。

チヨウシヨウ 長昌院 加賀藩主第五代前田綱紀の側室藤田氏の法號。

チヨウシヨウ 長松院 大聖寺藩祖前田利治夫人上杉氏の法號。詳しくは長松院松嶺隱之尼禪師。

チヨウシヨウ 超勝寺 超勝寺は本願寺四代綿如の子頼圓覺藝が初めて越前藤島に建てたものである。その頼圓が加賀に移つたことは、越前三州志に『頼圓父子不和に依て加州粟津に來り戸津に住す。』と説明せられ、戸津は粟津の隣邑であるが、この後系は頼圓の次子蓮覺の本蓮寺となつたもので、超勝寺の寺號と關係する所がない。越前の超勝寺は頼圓の長子如造が嗣ぎ、巧造・蓮超を経て實頼に至つた。然るに永正三年八月加賀の一揆が越前に侵入して朝倉氏と戦つた時、同國の本願寺門徒は一揆を助け、三門徒派と高田派は朝倉氏に黨し、その結果一揆の加賀に敗退するに及び、之と行動を共にした超勝寺實頼も江沼郡に入り、同五年林村に坊を營むことになつた。この後超勝寺の勢力の大に發展したことは、天文日記十二年九月及び十月の條に、超勝寺が室町將軍御所領・竹内門跡領等を横領した爲、幕府は之に放狀を發したことを見ても判る。この超勝寺は元來藤島から來たものであるから、加賀に來てからも藤島

超勝寺と言はれてゐたが、實頼の次代實照を経て頼祐の時に至り、越前に歸つて藤島坊を再興した。因つて林村の超勝寺は衰頽して、その寺址のみを遺すことになつたのである。芝懸紀開に、江沼郡林村領に昔越前藤島の長性寺があつたといふ屋敷跡があり、その一蕨勸歸寺は小松に轉じたので、このあたりに勸歸寺の門徒が多いと記し、又江沼志稿には、同郡塔尾村の堡も超勝寺の所であるかと載せる。

チヨウシヨウ 長松寺 羽咋郡飯山に在つて、曹洞宗に屬する。明應七年松岸旨淵の創立した所で、後香悦の中興といふ。

チヨウシヨウ 長正寺 鹿島郡黒崎に在つて、眞宗東派に屬する。

チヨウシン 靈心 加賀の人。大和東大寺の學僧で、觀理僧都に經論を學び、長徳三年維摩會の講師となり、少僧都に任ぜられ、寛弘四年遂に東大寺主となり、一住七年衆徒能く和した。長和三年二月寂。

チヨウシン 澄辰 白山本宮の長吏。澄祝の子。言繼卿記天文十三年正月十九日の條に白光院の希望により花鳥餘情を寫して與へたと載せ、同月三十日言繼の邸に於ける和歌始に白光院が頭役となつたといふのは、皆澄辰のことである。又同年六月には惣長吏澄辰法印宛所として白山禪頂杣取のこと先規相違あるべからざる繪旨を得、十四年六月には結城七郎四郎宗俊と同杣取に關する幕府に對する訴訟に勝利を得た。

チヨウシン 靈眞 白山本宮の長吏。澄意の子。享保二年父既に老年に及ぶを以て、惣長吏職の繪旨を請ふ爲に上洛したが、近年繪旨は幕府の沙汰を待たざるべからざることとなり、且つ恰も京都所司交代の際に當りたるを以て、翌年歸郷し、元文元年六月十四日五十五歳で歿した。

チヨウスイ 畠水 淺野川を唐めかしていふ場合に文人輩の用ひた語。又畠水に作ることもある。

チヨウスイ 超翠 ↓スキノチヨウスイ 杉野超翠。

チヨウスイタイ 趙翠臺 金澤に於ける蕪風俳人の庵號。北枝先づ之を稱へ、關東門の眉山之を襲いで翠臺とし、之と同時に後川の子北室も翠臺といふた。眉山に次いで樟江・古來兩人之を預り、眉山門の翠丈、同門の樂平、梅室門の年風、年風の子江波、年風門の超翠相受けた。超翠臺はまた鳥翠臺とも書く。

チヨウセイ 澄清 白山本宮の長吏。澄勝の子。慶長十九年八月廿九日七社惣長吏たるべき繪旨を頂戴し、元和三年正月十六日三十八歳で歿。

チヨウセイ 澄盛 白山本宮の長吏。澄眞の子。澄眞歿後を承け、明和元年閏十二月十九日七社惣長吏の繪旨を頂戴した。天明第三星次癸卯十二月廿二日入滅と記した石碑が残つてゐる。享年八十。

チヨウセイジ 長誓寺 鳳至郡西二又に在つて、眞宗東派に屬する。山號は養龍山。

チヨウゼン 澄全 白山本宮の長吏。延文四年十月十一日に、白山總長吏職行澄が歿し、大先澄澄全が長吏に任ぜられたこと、及び白山七社總長吏權少僧都澄全が、延文五年六月廿五日例に違つて勸進役を勤めたことが白山莊嚴講中記録に見える。三宮古記にも澄全の